

# さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ  
～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 6 令和3年12月20日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

12月になり、どのクラスからもクリスマスの歌が聞こえてきたり、サンタやトナカイの格好になってごっこ遊びを楽しんだりする姿が見られるようになりました。友達と一緒に遊ぶことを楽しんだり、行事に心を弾ませたりする子どもたちの姿をお伝えします。

## 私もサンタクロースになりたい！（花組）



ある日、花組のテラスにサンタの衣装とトナカイの角を身につけた風組さんがやってきました。ちょうどテラスでおうちや基地をつくって遊んでいたのが、「もしかして寝ている子どもにサンタさんがプレゼントを持ってきてくれるのかな？」と保育者が言うと、子どもたちはすぐに眠ったふりをしました。寝ている花組さんの側にプレゼントの箱を置いて、「メリークリスマス」と立ち去る風組さん。子どもたちは飛び起きて「わーい！もう一回来てほしい！」と、プレゼントが届いたことにとっても喜んでいました。

次の日、「サンタごっこする人この指とまれ！」とAちゃん。その言葉に次々と子どもたちが集まってきました。早速、サンタクロースの衣装をつくって身につけていると、近くで遊んでいた子どもたちも興味をもち、気が付けば6～7人の子どもたちが「私もサンタクロースになりたい」と集まっていました。Bくんは「ここがサンタのおうちにする！」とソフト積み木で囲いをつくっていきます。Cちゃんも「私も入れて」と言うと「同じサンタだから仲間だね！」と快く受け入れていました。同じものを身につけるということが、今の子どもたちにとって仲間の印だったりするのです。サンタの家では、「Dちゃんがサンタお母さんってことね！」とサンタのお母さんになる子どももいて、ご飯を食べたり踊ったりして遊んでいます。サンタになりながらもお母さん役やお姉さん役になって、ままごとを楽しむ姿に花組らしさを感じて微笑ましく思いました。

後日、警察ごっこ、ドーナツ屋さん、プレゼント屋さん、新聞屋さんなどいろいろなごっこ遊びが始まりました。警察になったかと思いきやプレゼントをもらう子どもになったり、お腹が空いたー！とドーナツ屋さんに行ったり、色々な場所に新聞を配達したりと、花組の“ごっこ”は自由気ままです。でも、1学期は遊びが移り変わるとそれでおしまいだっただけですが、遊びが変わりながらも同じ友達と一緒に遊んだり、なんとなくイメージやストーリーがつながったりしながら遊ぶようになったなと思います。それぞれに楽しんでいる遊びをこちらが支えたりつなげたりしていますが、そんな中で友達の遊びの面白さに触れたり受け

入れたりしてほしいなと思っています。3学期はどのように遊びが広がっていくのか、楽しみにしています！（高橋）

## 「おもちゃのチャチャチャ」のショー！（風組）



12月に入り、帰りの集まりで、カスタネットを持って『おもちゃのチャチャチャ』に合わせて演奏しました。また次の日は、鈴を使って演奏をすると、「みんなでやると楽しいね。」とAくん。みんなも「またしたい。」と言い、その日は終わりました。

次の日Aくんが、広告紙の棒の端2つにタフロープをつけ、弓のような形を作りました。広告紙の所を持って振るとタフロープが擦れて“カシャカシャ・・・”と音が鳴り、とても嬉しそうに笑っているAくん。保育者のところに来て「先生、見てて！」と作った物を耳の近くに当て再度音を出します。保育者が「わあ、何か素敵な音が聞こえたよ。これは何？」と尋ねると、「これはね、鈴でした～！」と言いました。保育者が「何か一曲、その鈴の演奏を聴きたいな。」と言うと、保育者と『おもちゃのチャチャチャ』を歌いながら作った鈴を鳴らして演奏しました。

また次の日、Aくんが「先生、バイオリン作るから輪ゴムがいる！」とバイオリン作りを始めました。Bくんが「何してるん？」と来て、Aくんが「バイオリンだよ。」と言うと、Bくんが「僕もつくりたい！」とそれぞれ同じような廃材を集めて、バイオリンを作りました。近くにいたCくんが、「僕、笛作ろうかな。」とトイレトペーパーの芯を持ってきました。みんなのイメージは、『山の音楽家』かな？と思い、それぞれの楽器作りの手伝いをしました。Cくんは、思い通りの笛ではなかったのか「別なもの作ろう！」と箱を二つ持ってきて合わせるように叩くと、「これにしよう！」と言いました。保育者が「何の楽器かな？」と聞くと、Cくんが「お猿が持って、カチャカチャ音を鳴らす、あれ！」と言い、保育者が「シンバルだね！いい考え思いついたね！」と言うと、少し照れながら嬉しそうに笑っていました。Bくんが「風1さん呼んで来て言い？」とみんなに言いました。Aくんが「マイク作るから待って！」と言い、保育者が「演奏会するの？」と聞くと3人は、「そうそう」とうなずき、Aくんが「ショーをするの！」と言いました。Aくんは、演奏するのをずっと楽しんでいたので、ショーのイメージをもって作っていたのは知っていました。しかし、BくんとCくんもショーのイメージをもって一緒に作っていたことがわかりました。友達のことをよく見ているから、言葉にしなくても同じイメージで進められるのだなと思いました。

風1さんが来て、張り切ってAくんが「今日は、来てくれてありがとうございます。ショーを始めます。」と言いました。『おもちゃのチャチャチャ』のCDが流れると、みんなは真剣な顔で自分の楽器を演奏しました。みんなで「これでショーを終わります。」と言うとAくんが「今日は、めっちゃめっちゃ来てくれて嬉しかったです。」とマイクを持って気持ちを伝えていました。

今までやった遊びを、繰り返し遊ぶ中で、「こうしよう！」「お客さん

呼んでくるね。」など友達に話しながら進める姿に成長を感じました。このような姿を3学期にもつなげていきたいと思います。（尾川）

## 星組のみんなでクリスマスの劇をしよう！（星組）



11月下旬にクラスでクリスマスツリーの壁面を作ると、クリスマスの日が待ち遠しくなった様子の子どもたち。お帰りの集まりの時間に、クリスマス会の劇について話すことにしました。すると、「前の星組さんの劇覚えてるよ。」「サンタさんからプレゼントをもらう劇だった。」と昨年度の星組さんが見せてくれた劇を覚えているようで、すぐに「劇やりたい。」「花組さんや風組さんに見せたい。」と意欲を示していました。そこで、「どんな劇にしたい？」と保育者が尋ねると、「クリスマスの劇。」「サンタさんが出てきてプレゼントを渡す。」「窓がついているお家を作りたい。」「妖精とサンタさんが会うのはどう？」「動物たちも出てくるようにしたい。」「ねこが出てくるのはどう？」とそれぞれが思い思いの意見を出していき、子どもたちはやる気満々の表情でした。

早速、子どもたちは必要感を感じてサンタクロースの衣装やそり、妖精の羽根、ネコの耳やしっぽなど自分がやりたい役の衣装や道具を作り始めました。そりを作っていたAちゃんとBくんが、そりの色を茶色にするか赤色にするかで言い合いになっています。困った表情で見ているCちゃん。タブレットでそりの色を調べると、「そりって赤色だけじゃなくて、茶色も緑色もあるんだね。」とBくん。「（茶色の段ボールだったので）赤色をつけるのはどう？」とCちゃん。「そうする。」と納得した様子の子どもたち。茶色も赤色も混ざったそりが出来上がると、3人でそりの椅子を作り始めました。このように小道具一つにしても、友達と相談し、折り合いをつけながら一緒に作っていく様子が見られました。

たまかなお話が決まると、まだ役が決まっていなかった子どももやりたい役を決めていきました。その中で、劇の道具や飾り作りで大活躍したのは、楽器役の子どもたちです。「大きなクリスマスツリーを作りたい。」と提案したDちゃんを中心に、他の楽器役の友達と大判用紙に大きなクリスマスツリーを描き、飾り付けをしていきました。妖精のお城に絵を描くのを手伝い、「この絵は私が描いたんよ。」と一緒に作ったことを喜ぶEちゃん。プレゼント作りを頑張ったFくん。人一倍張り切って遊戯室の飾り付けをしたGくんやHくんなど、劇に向けてそれぞれのかかわり方で盛り上げていこうとしていました。

劇を何度か繰り返しながら、必要な衣装や道具を追加で作ったり、もっとこうしたいという思いが出てきて新たにセリフを入れたりして、日々バージョンアップした劇になっていき、星組みんなで一緒に作り上げた劇になっていきました。星組が「クリスマスの劇を花組や風組に見せたい。」という一つの目標に向かって、自分がやりたいことやできそうなことを見つけ、自分なりのかかわり方で取り組もうとするたくましい姿に、大きな成長を感じた12月でした。（松村佳）

3学期も子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思います。  
新年もどうぞよろしくお願致します。良いお年をお迎えください。

